

採用情報Q&A

Q1

学生時代に税法や会計などを勉強したことがなくても採用されるのでしょうか？

国税庁総合職職員のバックグラウンドは多彩です。法学部、経済学部だけでなく、文学部、理学部、工学部からも採用実績がございます。入庁後、仕事をする上で必要な専門知識は、日々の業務を通じて習得していくことができます。

Q2

採用されやすい試験区分はありますか？

試験区分による採用の優劣や違いはございません。デジタル区分・理系区分を含めた総合職試験の全区分を対象に採用を行っております。採用後のキャリアパスも区分による違いはなく、本人の希望と能力などに応じて経験を積んでいくことになります。

Q3

税について詳しくないのですが大丈夫でしょうか？

国税庁総合職事務系職員には、税務大学校において、数カ月単位で税法・簿記会計を学ぶ研修が用意されております。税務署勤務に備え、税法の知識や申告書の書き方を学ぶ高等税法研修や税務やマネジメントなどの高度な内容を学ぶ税務理論研修などがございます。

Q4

入庁後のキャリアパスについて教えてください。

入庁1年目は、国税庁内で係員として勤務していただきます。その後、全国の税務署・国税局での勤務を経て、4年目からは国税庁で係長として勤務していただきます。その後のキャリアパスは様々であり、ぜひ本パンフレットから幅広い職務人生を読み取ってください。

Q5

留学の機会がありますか。

若手総合職職員は、海外の大学院に留学し、自身の関心分野の研究を行う機会が与えられます。毎年、欧米のロースクールなどに職員を派遣しており、留学中の職員は、高度な知識をその後の業務に活かすため、研鑽に励んでいます。

Q6

国税庁総合職事務系ではどのような採用活動を行っていますか？

1年間を通して様々な採用説明会を実施しております。詳しくは、国税庁HPよりご確認ください。



国税庁 長官官房
人事課 人事企画室長

大森 朝之

採用担当者からのメッセージ

「正直者には尊敬的、悪徳者には畏怖的」

国税庁の開庁時に、当時のGHQ内国歳入課長であったハロルド＝モス氏から贈られた言葉です。善良な納税者からは信頼され、一部の悪質な納税者からは恐れられるような存在であれ、ということを示しています。

この言葉が贈られてから約70年経ちますが、今も変わらずこの使命を胸に刻み、困難な課題に挑む約56,000人の職員が国税庁にはいます。このパンフレットでは、国税庁の魅力のほんの一部しかお伝えできませんでしたが、常によりよい税務行政をデザインし、実装しようとする職員の熱い想いが伝わったでしょうか。

税務行政を取り巻く環境は今、変革期を迎えています。社会全体のデジタル化が急速に進む中で、国税庁は「あらゆる税務手続が税務署に行かずにできる社会」を実現するため、「税務行政の将来像2.0」を策定しました。我が国における行政サービスのDXを牽引すべく、「将来像」として明確にした構想の下、スマートフォン1つであらゆる税務手続を場所を選ばずに行うことができる「スマホ申告」や「キャッシュレス納付」といった先進的な取組も推し進めています。

また、経済のデジタル化の進展により、GAFAに代表される巨大デジタル企業の更なる台頭が注目を集める中、国際課税の世界では、物理的な拠点を越えて世界中でビジネスを展開する多国籍企業への課税を強化するため「100年に1度の大改正」とも呼ばれる国際課税のルール策定が大詰めを迎えており、国税庁は、5万6千人の部隊を動かす執行の立場から、国際的なルールメイキングにも重要な役割を果たしています。

就職活動中は、思い悩むことが沢山あると思います。思い起こせば、約20年前の私もそうでした。ただ、入庁前に、国税庁という巨大組織で税を専門として働くことを不安に思う必要はありません。国税庁は、税法や語学等、職務に必要な知識や能力を磨く研修等の機会が用意されており、業務を通して自分を成長させていくための環境があります。

我々と共に、これまで築き上げてきた国税組織の強みと納税者からの信頼を守りながら、これからの時代の税務行政のブランドデザインを描く仕事をしてみませんか。このパンフレットを読んで国税庁の仕事に興味を持っていただいた皆さんと、ともに向上心と気概を持って働ける日を心待ちにしています。